

## 【題材設定の理由、ねらい】

- ・身近である「顔」をテーマにし、自分が興味ある「有名人の顔」を選ぶことで積極的に制作を行う。
- ・写真を色面分割して表現し、デザイン化される面白さを味わう。
- ・色彩の学習をし、色に対する興味・関心を育む。
- ・アクリル絵具や、筆などの道具の使い方を学ぶ。
- ・明度の変化を感じ取り、それにより立体感が表現されることを理解する。

【道具】 B4ケントボード、アクリルガッシュ 等

## 【指導計画】

## 1,2時間目

## ■図書室にて写真（モチーフ）選び

アエラ、ナンバーズなど顔写真が載っている雑誌を用意しておく。

## 【モチーフ選びの注意点】

- ・大き目の顔写真を選ぶ。（小さすぎると拡大コピーをするとき目が粗くなってしまう）
- ・基本的には正面か、斜めの角度の顔。後ろや、斜め後ろ、横顔はなし。
- ・明暗の段階が分かりやすいものがよい。  
→白（明るいところ）が多すぎたり、暗すぎたり、コントラストが弱すぎたり、強すぎたりしないもの。
- ・自分が興味ある人、というより、表現しやすい写真を選ぶ方がよい。

・選んだモチーフを担当者が確認し、作品にしやすいかどうか判断する。

・OKであることを確認後、付箋にクラス番号名前を書き、付箋が本からはみ出るように貼る。

※同じページに複数の写真がある場合は、わかるように付箋にメモしておく。

## ■練習用のプリント（その年の顔となる有名人をピックアップし、練習用として全員が取り組む）

説明にある手順に従って行う。

（道具）鉛筆、消しゴム、クロッキー帳、マスキングテープ 練習用プリント

教師が図書室に全て持って行く。

## 【転写・明度分割の手順】

①印刷された画像の裏面を鉛筆で黒く塗りつぶす。

②黒く塗りつぶした面を下にして、クロッキー帳の白紙のページに重ねて置く。

③ずれないように、マスキングテープで留める。

留める場所は上の辺の2ヶ所。途中で移り具合を確認するため、横や下は留めない。

④**明度（明るさ）が切り替わる境界線に線を引く。**

（注意1）線はくくるように引く。

引いた線が途中で終わっていることがないこと！（塗り絵ができる状態にする）

（注意2）微かな変化を観察する。特に、目、鼻、口など特徴的なところは慎重に。

省略しすぎたり、単調な線を引いたりするとのっぺりとした画面になる。

（ポイント）

境界線が見づらい場合は目を細めてぼんやりと見る。

線が引けているか途中で確認する。

線が正しく引けていると、顔の形が見える。塗り絵ができる状態になっているか確認する。

⑤1番明るいところに1、次に明るいところに2、3、4・・・と番号をふりましょう。

※原則として、明度1のとなりは明度2、そのとなりは明度3、4・・・となる。

※1番明るいところを、明度1、2番目に明るいところを明度2、以下明度3、明度4とします。

GIMP等のソフトを使い、予め明度分割した状態でコピーを用意してもよい。その場合、生徒が明度分割する手間が省けるとともに、違和感がない作品になりやすいため、上手くできたと感じるができると思う。

### 3,4時間目

■明度分割（明るさが切り替わる境目に線を引く） ※用紙は全てA4使用

- ・印刷された用紙の裏を真黒く塗る。それをコピー用紙①に重ね合せ、分割線を引く。

※分割は、5段階以上～6段階程度を基本とする。

明度分割の方法は、【転写・明度分割の手順】を参照。

※明度分割ができているか、教師が確認をする。こちらで手直しの時間を長くすると、他の生徒の待ち時間が増えるので、ある程度指摘をして、基本的には自分でやらせる。

- ・分割がOKの場合は、コピー用紙①の下にカーボン紙を引き、コピー用紙②に転写。

①は、色鉛筆で、配色計画を立てながら塗る。【着彩の条件】参照

②は、B4サイズに教師が拡大しておく。→ ケントボードへ転写するためのもの

### 5,6時間目

着彩について・・・ 明度・色相・彩度について、色相環などの掛図を用いて説明。

#### 【着彩の条件】

①明度・彩度・色相を工夫すること。

(→肌の部分、もしくは髪まで含め、色相をあまり変えない方が自然な感じになる)

②白・黒・グレーの無彩色や、白・黒ともう一色だけ（例えば、白、水色、青、紺）で表現する、  
ということは不可。

③どの面（背景も）においても、2色以上混ぜた色を使用する。

④明度1が最も白の割合が多い。明度2、3とすすむにつれて、白絵具を混ぜる量を減らしていく。

⑤同じ明るさのところは同じ色。黒目、唇などを特別に他の色にしたりしない。

(その他、どんな色で制作をしてもよい)

■前回の続きを行う。

- ・この時間までに全員コピー用紙①に分割線を引き、コピー用紙②に転写まで完成させる。
- ・また、色鉛筆による配色計画もこの時間までとして、配色計画が終わらない生徒は宿題とする。
- ・配色計画が終わった人は、B4サイズに拡大しておいたプリントをB4ケントボードに転写して、着彩開始。

### 7,8時間目

■明度1から着彩を開始する。(B4ケントボードに転写する人はそこから始める)

※白から黒まで5段階のグレースケールをPCで作成し、A5サイズで、1人1枚配布する。

着彩する時にそのグレースケールに実際に混ぜ合わせた絵具をのせて、明度を確認する。

それぞれの面に着彩する度にグレースケールで明度を確認することで、明度差をつけながら着彩する。

※絵具を多めに作って準備して、平塗りで丁寧に塗る。

※同じ明るさのところは、同じ色で着彩。塗り残しがないように配色計画をしたプリントを確認しながらすすめる。

### 9,10時間目

■明度2、明度3の着彩 グレースケールを使用し、段々暗くなるように確認をしながら着彩  
転写した際のカーボン紙の線は消すように着彩をする。

### 11,12時間目

■明度4、明度5の着彩 グレースケールを使用し、段々暗くなるように確認をしながら着彩  
転写した際のカーボン紙の線は消すように着彩をする。

### 13,14時間目

■修正（2度塗り）、背景着彩、作品カード記入、提出